



平成27年10月26日
佛教大学附属幼稚園

ゴジラの悲しみ アトムの悲しみ

園長 藤堂 俊英

わが子が小学生の頃、社会科の勉強になるとせがまれ小学生新聞をとりはじめました。しばらくして気付いたのですが、今では海外でもアニメで放映されている「忍たま乱太郎」の原作「落第忍者乱太郎」が連載されていたのです……。ちなみに作者の尼子騒兵衛（本名、片根紀子）さんは佛教大学文学部歴史学科の卒業生です。その朝日小学生新聞の題字の下に「おかあさんへ」という小さな欄があり、親の私はそこを読むのを楽しみにしていました。今から11年前の平成16年2月13日のその欄に、「ゴジラの悲しみ」という次のようなコラムが載っていました。

拝啓 ゴジラ 様

先日は「ゴジラ人気四十年」の取材にご協力くださり、ありがとうございました。新聞が刷り上がった日の夜、私は映画館で、再びあなたの雄姿を見つめていました。あなたは四十年間、文明に酔いしれる人間社会に対し、自然の側の代弁者として警告を発し続けてきました。あなたの咆哮（ほうこう）が、どこか悲しげなのは、じつは、あなたが自然との調和を忘れた私たち自身の、内なる野生の象徴だからかも知れません。あなたに撃破された超ハイテク兵器、メカゴジラの乗組員は言います。「敗北は、いのちあるものと、ないものの差だった」と。悪役であるあなたの勝利に、なぜか、ほっとしました。あなたと人類の共存を願ってやみません。

ゴジラと同じく世界中で放映されているアニメにアトムがあります。次にあげるのは応用昆虫学を専攻したエッセイスト澤口たまみさんの「アトムの涙」（『虫のつぶやき聞こえたよ』白水社より）の一節です。

正義のロボット・アトムは、不死身のヒーローだった。続いて私が出会った手塚作品は、アフリカの大自然を舞台にした『ジャングル大帝』である。ジャングルを動物の安住の地にするために、どんな困難にも立ち向かう白い獅子レオはアトムと並ぶ手塚漫画のヒーローだった。『ジャングル大帝』を読んで私のアトム観は大きく変わった。それまでは気にならなかったこんなシーンが、やけに胸に突き刺さるのである。人間の子どもたちと一緒に勉強することを希望して学校に通うアトム。みんなが「いただきます！」とって給食をパクつくとき、アトムは物陰に隠れ、こっそり体に燃料を補給する。その悲しげな背中……。

氏が『鉄腕アトム』の中で描いていたのは、科学文明への賛歌ではなく、やがて訪れる科学全盛時代への警告だったのだ、と。そして二十一世紀に向かうこれからこそ、人類の英知が本当に試されるときだ。自然界の代弁者として人間界に牙をむくゴジラの姿は、地球温暖化のために生まれ猛威をふるう巨大台風に重なります。近頃もてはやされるアンチ・エイジングなどという言葉の延長線上には、ひょっとするとアトムの悲しみが待っているのかもしれない。灯火親しむべしの候です。絵本には子どもたちが喜びや悲しみ、苦しみや楽しみを共に分かち合い、暖かく豊かな世界を築いて行くきっかけとなる言葉や絵が盛り込まれています。そして子どもたちがそれぞれに、勇気100パーセントをひねり出すヒントが隠されています。就寝前でも結構です。「そろそろおやすみなさいの時間ですよ！」の合図がわりに、お子さんに絵本を読んであげてみてください。